

巻頭言

高い志で前へ

Going forward with high aspirations

執行役員
開発本部長刈田 誠一
Seiichi Fuchita

コマツにはダントツという言葉があります。ダントツ商品とは「安全性、環境対応、ICT、経済性（作業効率）において他社の追随を数年は許さない特徴を持つ商品」と定義しています。このようにダントツには「他を寄せ付けない大きな価値」という強い思いが込められています。

昨今、製造業においてIoT、AIが益々重要になっています。我々も2015年2月にスマートコンストラクションをスタートし建設現場のICT化を進め、昨年10月には建設プロセス全体をつなぐプラットフォーム「LANDLOG」を立ち上げました。また社内、グループ会社、サプライヤーの生産機械をIoTで繋げて効率を上げる取り組みもしています。お客様の成長（＝コマツの成長）にはハードだけでなく、ソフト、そしてプラットフォームまで網羅したダントツのソリューションが必要です。そこでダントツについて今一度考えたいと思います。

世の流れはハードよりソフトで稼ぐ方向で、製造業の中にはハードよりソフトにアセットを集中する会社も出てきています。各社それぞれの戦略を持ち進めているわけですが、我々が目指す真のダントツソリューションは、お客様の課題を深く深く考え開発したダントツなハードとソフトが融合し生まれるものだと考えます。いかに優れたソフトでもハードのレベルの違いで大きく価値が変わってきます。我々はダントツのソフト開発をトップランナーで進めなければなりません、同時に他社の追随を許さぬダントツのハードをどんどん開発して行かねばなりません。

新しいアイデアに果敢に挑戦する事、現在まで磨いてきた技術にさらに磨きをかける事、複数の現有技術に工夫を入れ融合させ新しい価値を創造する事、全て大切な開発です。それら開発の中で現場を見て深く考え、必要なリスクをとり、泥臭いことに正面から向かい合う、そんなコマツらしい真面目で諦めずやり抜く力がダントツを生むと信じています。

しかしながら、これからもダントツを生み続けるためには、新たな挑戦が必要です。我々をとりまく環境は物凄いスピードで変化していきます。お客様の求める価値の変化や技術の大きな進歩、特にAI関連技術は未来を大きく変えていくでしょう。そうした中、これまでの成功体験の延長線上の取り組みでは対処できない事が沢山出てきます。今まさに既存の開発システム/道具/考え方の改革・変革を行うべき時期だと考えており、持続的成長のため開発の業務とシステムの大膽な改革・変革を進める所存です。

また、様々な分野との連携を強化することがこれまで以上に重要となってくると考えています。例えば技術面の課題では、ダントツハード作りには機械要素技術（冶金、金属、鍛造含む）が重要ですが、昨今の課題は大学でこれらを研究する所が少なくなっているという現実があります（絶滅危惧分野）。これらの分野の技術進歩のためには、産・官・民の連携が益々重要ですし、その活動を通して人材育成も行っていく必要があります。

ダントツソフト開発を行うにあたっては、自前主義には限界があります。お客様の課題を徹底的に考え抜いたソリューションを誰よりも早く実現するためには、オープンイノベーションがとても重要です。

ダントツを生み続ける開発部隊は高い志と気概が必要だと考えます。社会とお客様に大きく貢献するという志をつねに持ち、真のダントツを継続的に開発し、前に前に力強く前進して行く開発部隊を作っていきたいと思えます。